



体験を重ねるにつれて、指示待ちだった子が、園でも給食の用意を進んでするなど、自分で考えて動き出すようになりました。本当に、たくましくなったと感じています。

「これは危険だからやめよう」と決めてしまっていたことも、それは実は知識がなかっただけだったり…。下見など事前準備を念入りにすることで、「ここまでなら大丈夫」というのが見えるようになりました。

保育士・先生の声



木登りに目覚めた子、絵が好きになった子、園の中で消極的だった子たちが、生き生きと光ってきました。自分の好きなことや得意なことを発見できるのも、野外体験の魅力ですね。

言われたことは何でもできるけど、「何がしたい?」と聞くと分からなかった子どもたち。でも、だんだん「こんなんしたい!」という声があがり、主体性が出てきたなど感じています。



これまでの散歩では、すぐ疲れて歩けなくなっていた子も、森や川では周りが魅力的だったり、みんなが頑張っていたりするのを見て、長距離でも歩いていました。野外体験の力って、やっぱりすごい。



保護者の声

友だち同士で関わるが増え、周りを気遣ったり、仲間意識を持ったりするようになりました。友だちがやるから自分もやってみようという、積極性も増えたように思います。

初めは、森の中に入って行くのとか、坂道などが怖いと言っていました。何度も行くにつれて、行くのが楽しいに変わってきました。家ではできない体験ができて、ありがたいです。



以前より、山や川などの自然や虫に興味を持つようになりました。また、体験後は「今日こんなんしたよ」「虫とったよ」など、家での会話も増えました。

まずは大人が楽しみましょう！
地域や園の周りに出かけて、子どもたちと一緒に自然の宝探しをしてみましょう。
子どもたちは「さがすこと」「あつめること」が大好きです。木の実をつなげてネックレス作りや、生きものとの出会いなど、自然の中での遊び方や楽しみ方は、ちょっとした工夫でどんどん広がっていきます。
野外体験保育で、子どもたちが主体的で目が輝く毎日です！



野外体験保育アドバイザー
森本 真理さん
(キャンプinn海山 マネージャー)

地域の皆さんにもご協力をいただいています！



野外体験保育を実施するために、各保育所・幼稚園の皆さんはそれぞれに、山の所有者に山を開放してもらったり、休耕田を利用させてもらったり、みかん狩りをさせてもらったり、自然の中で園庭では楽しめない体験をさせていただいています。

詳しくは、お問い合わせください！

発行

三重県 健康福祉部 子ども・家庭局 少子化対策課
津市広明町 13 番地 TEL 059-224-2304 FAX 059-224-2270
shoshika@pref.mie.jp

野外体験保育事業 検索

保育所・幼稚園等 保育に携わる皆さんへ

三重県は、子どもの「生き抜いていく力」を育むため、県内の豊かな自然を生かした野外体験保育を推進しています。自然の中での体験は、子どもが育っていくうえでかけがえのないものとなります。

保護者・地域の皆さんのご理解・ご協力をいただきながら、野外体験保育に取り組んでみませんか。

のびのび
たくましく成長！

豊かな感性が育つ！

野外体験保育
のすすめ



野外体験保育とは
野外を中心とした地域の自然を体験活動に取り入れた保育や幼児教育のこと。子どもたちが主人公になれるよう、周りの大人(保育士等)が関わりながら取り組みます。

先生！
あれしたい！

これしたい！

危くないの？

でも、何から始めるの？

子どものやりたい気持ちをくみ取って、野外体験保育にチャレンジしてみませんか？

事前に周りの環境を把握することや、知識を持つことが必要！
詳しくは次のページをご覧ください。

／ 毎日が発見・感動・驚きの連続！／
子どもの生き抜いていく力を育む

野外体験保育

を取り入れてみませんか？

海・山・川・大地… 三重県の恵まれた自然環境の中、子どもたちは四季を通して、いろいろな体験を積み重ねることで、豊かな感性・表現する力・創造力を身に付けていきます。

保育士の皆さんへ

まずは、子どもの「やってみたい!」「こうしたい!」という声を聞いて、どんな体験が実現できるかを考えてみましょう。

見守って
あげるのが
大事なのね



なるほど
こういう体験で
いいんだ

子どもたちは森へ行くだけで気分が高揚! 木に登ったり、秘密基地を作って遊んだり、どんぐり・木の実・果実などを拾い集めたり、自分のやりたいことを見つけ楽しみだします。



山あそび



ちょっと
怖いよ〜

山の斜面を滑り降りたり登ったり、のびのび五感を刺激しながら遊ぶ子どもたち。最初は不安でもすぐに慣れ、楽しい時間を過ごします。



おもしろいよー!

たのしみです

磯あそび



貝がいっぱい!
いいでしょ!!



貝や海藻などの海の生きものを採取。採った貝は、園に持ち帰って塩ゆでにして食べるなど、命のつながりを学び、自分たちが住む地域の良さを発見。



川あそび

川の中も発見がいっぱい。子どもの「やってみたい」という好奇心や、「これなんだろう」という疑問を保育士が受け止め、子どもたちの自ら考えて動く力を育てます。



捕まえたよー!



何かいるかなあ?

生きもの
ふれあう



見つけた!

用水路でザリガニを釣ったり、川でカニや虫を捕まえたり、森で植物を探してみたり…。そして、それらを絵本や図鑑で見比べることで、子どもたちが一層関心を持つようになります。



みんなで作ったよ!
大きいでしょ

たくさん
収穫!

食物の
栽培・収穫

世話をし、観察して、収穫する。最後までやりきること、達成感を味わい、意欲的になる子どもたち。収穫物を家庭で調理してもらい、「おいしいね」と家族から言われると自尊感情も育ちます。

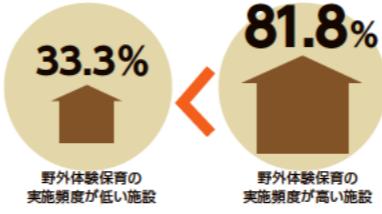
野外体験保育は特別なものではありません。大切なのは、子どもが自分で気づかないと学びにならないということ。そういう気づきにつながるものが、自然の中には多くあるというだけで、無理に体験の場を作らなくても、園庭で虫を捕まえたり、花木を観察したり、そんなことでも十分できる保育です。子どもが何に興味を示し、どう感じるのか。それを見守り引き出してあげることで、いろんな感性が育まれていくのです。

野外体験保育アドバイザー 嘉成 永慈さん
(自然体験教室「森の風しぜん学校」校長)



野外体験をするうちに 子どもの行動に変化が出てきます!

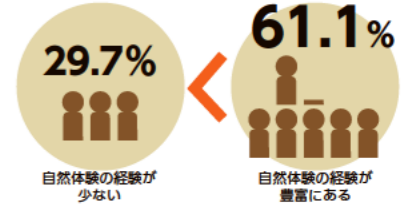
「自らすすんで何でもやる」という園児が見受けられる施設の割合



平成27年度 三重県
 「野外体験保育有効性調査報告書」より

- ある程度の責任を持った判断が可能になる
- 自ら考え、行動する力が身につく
- 互いに尊重し合い、助け合えるようになる
- 自然や色・形・大きさなどに関心を示し、豊かな感性が育つ

「自分が好き、自信がある」といった自己肯定感を持つ園児の割合



平成26年度 国立青少年教育振興機構
 「青少年の体験活動等に関する実態調査」より